りょうかわ

学校だより　令和3年6月28日発行　第6号　新潟市立両川小学校

協働的に学ぶからこそ身に付く力

校長　　中村　雅芳

学習定着率「Learning Pyramid」
出典：National Training Laboratories
アメリカ国立訓練研究所

上の図は，どんな学習方法がしっかりと頭に残るかを分類してピラミッド型の図にまとめたものです。５０年ほど前にアメリカで発表されました。平均学習定着率から見ると，一方的な講義は５％の定着率しかありません。それに対して，グループ討議（話し合いや学び合い）は５０％，他者に教えることに至っては９０％の定着率となります。つまり，教室で教師の話を一方的に聴くことで得た知識よりも，友だち同士で話し合って，分かったことを伝え合って得た知識の方が，はるかに定着するというのです。「各数字に根拠はない」との批判も一部にはあるようですが，日本でも「協働的な学びによる知識の定着度は，一斉指導形式，習熟度別指導のそれよりも高い」という研究結果が，神戸大学発達科学部教授 伊藤篤（2010）によって発表されています。

また，人間には「交流欲求→承認欲求→影響力欲求」という段階的な欲求があります（マズローの欲求階層説）。協働的な学びを授業に取り入れていくことは，子どもたちにこれらの欲求を満たすことにつながり，結果，学ぶ喜びや意欲をもたせることができるのです。さらに言えば，昔から「協働的な学び」を国家政策として取り入れてきたフィンランドやシンガポールは，国際学力調査で常に成績上位国です。

先週の金曜日，５年生で「日本の米作り」について研究授業を行いました。これまで約１０時間かけて，米作りについて学んできた子どもたちです。まずは，地域の米作り名人である矢部雅彦・優子ご夫妻から直接手ほどきを受けながら，種まき，育苗，しろかき，田植えと体験的に学んできました。小規模農家ならではのこだわり，苦労，喜びなども矢部様から直接学んできました。矢部様以外のやり方（仲間と協働で行う米作りや会社組織で行う米作りなどの大規模農業）についても教科書や，インターネットなどを通して多くの知識を得てきました。そのような前段階があって，６月２５日（金）の１時間でした。

学習課題は「これからの日本の米作りはどっち？」でした。いくつかの農家で米作りをすべきか（大規模農業），一つの農家で米作りをすべきか（小規模農業），子どもたちは決断を迫られました。結果，１８名の子どもたちの意見は，大規模７　対　小規模１１　と割れました。子どもたちは，これまで得てきた知識を根拠にあげて，相手を説得するための意見を次々と述べていきました。

＜大規模派＞
・いざというときはチームで助け合って仕事をすることができるから。
・お金を出し合って最新の農機具を買うことができるため，重労働から解放されたり，労働時間を短縮できたりするから。
・後継者を広範囲に募ることができるため，米作りを継続的に行っていけるから。

＜小規模派＞
・矢部家ではなるべく農薬を使わずに工夫してやっているため，地球環境に優しいから。
・天候の変化に応じてこまめに調整できるため，品質のよい米を作ることができるから。
・高い品質や珍しい品種の米は，うまさを追求したい消費者と直接つながるようになる。そして，その人に向けて愛情をもって，米の生産，販売まで行えるようになるから。

途中，授業者から「農業人口の激減」「農業従事者の超高齢化」「米の消費量の低迷→米余り」という厳しい現実を示す資料提示がありました。子どもたちはより切迫感をもって，これからの日本の農業が進むべき道を模索し続けました。最終的な子どもたちの意見は大規模７ 対 小規模８ 対 どちらのいいところも融合３ でした。授業のまとめは「両方比べたからこそ，それぞれの良さがわかった。これからの日本の米作りは，どちらも正しい」でした。社会科という教科の本質は「社会認識形成を通して，市民的資質を育成すること」です。現実には問題山積の日本の農業について５年生なりに考え抜き，多くの根拠をあげて真剣に意見を述べる姿は，まさに市民的資質が育成された姿であり，「学習指導要領 社会５年生」の目標（以下一部抜粋）に到達した姿でした。

＜知識・技能＞
・食料生産に関わる人々は，生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして，良質な食料を消費地に届けるなど，食料生産を支えていることを理解すること。
＜思考力・判断力・表現力＞
・生産の工程，人々の協力関係，技術の向上，輸送，価格や費用などに着目して，食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉え，その働きを考え，表現すること。

【堂々と自分の考えを主張する子どもたち】

【前時までの膨大な学びが主張を裏付ける力強い根拠となりました】

今回，子どもたちに見られた「主体的・対話的で深い学び」が，どの学年，どの教科でも実現できるよう協働的に学んでいく過程を大事に，授業を推進してまいります。保護者の皆様，地域の皆様からも応援していただけるとありがたいです。

最後になりますが，５年生担任の田中香苗教諭と５年生の子どもたち，素晴らしい授業をありがとうございました。今後も期待しています。

【放課後に小中の教職員で授業を分析しました】